

本町が誇る特産品 「りんどう」を次世代につなぎたい

智頭りんどうの産地は今、存続の危機にあります

本町のりんどう栽培は、昭和46年から始まりました。ピーク時には、39戸の農家が10haで栽培し、販売金額が1億円を超える産地となりました。

しかし、現在では、栽培戸数は10戸、面積も1haまで減少しています。残った生産者だけでは、栽培面積をこれ以上増やすのは難しく、このままでは産地としての存続が難しい状況です。



りんどうの特徴

- ・ 盆や彼岸の仏花として、安定した需要があります。
- ・ 夏季冷涼な高冷地に適する花き品目であるため、本町はりんどうの栽培に適しています。
- ・ 水田が栽培に適しているため、水田転換作物として優れています。
- ・ 栽培1年目は収穫できませんが、1度植え付けると、2年目から3～4年程度収穫できます。
- ・ 10aあたり60～110万円程度の販売金額が見込めます。

りんどうを栽培してみませんか？

- ・ 露地栽培なので、ビニールハウスなどの施設は必要ありません。
- ・ 栽培に必要な種子は、生産部会で保存したものが利用できます。
- ・ 栽培方法は、部会や関係機関が丁寧にサポートします。(今後、ほ場見学や体験会、相談会なども開催予定です。)



- ・ 調整や箱詰めは、選花場の選花員が行うので、自宅での調整は不要です。
- ・ 労力がかかる収穫時期は6～8月なので、水稻や秋冬ねぎなどの品目と組み合わせて栽培できます。

5a程度の小面積から、りんどうの栽培を始めてみませんか？

まずは、気軽に相談してください

問合せ先

役場山村再生課
J A 鳥取いなば智頭支店

☎ 75 - 3117
☎ 75 - 2816